

第55回東京同窓会総会・懇親会／振り返り

●2022年8月7日引継ぎ会における実行委員会（袖山）メモにことよせて

総合：同期の参集必ずしも盛り上がらなかった今期、特に松沢実行委員長、袖山さんには孤軍奮闘を頂き、大変ご苦労さまでした。お二人の力なくば形にならなかった。

2.1 同期の動員について

- ・年初（今回では1月15日）の実行委員会・総会指導委員会・広報委員会の合同委員会主に会報あがたの編纂キックオフが遅い、という指摘は昨年度も話題になったところ。次回はもう少し早い段階での開催を考えたい。
- ・ただし、引継ぎ会は7、8月に実施しており、それ以降の実行委員会のまとまりにおいて助走期間は十分にあるものとする。その間の醸成も大事ではないか。

2.2 同窓会に対する認識、イメージ

- ・そもそも同窓会に100点満点はなく、どうせなら盛会でありたいというくらいのもの。「共感」や「意義」、「得られるもの」といった何を訴求できるか、永遠の課題だが考えるより「何かやる」のが先で、できることを繰り返すしかない。

2.3 先輩とのネットワーク

- ・より身近に何かと相談できる方が欲しい、は留意したい。
- ・改めて6年委員会の意義。この指摘に応じるものとしてある期待あり。直接会えないハードル、ガード下宮ちゃんも今はない。
- ・6年委員会、歴代実行委員の不定期座談会を続けるのも一案。

2.4 幹事への企画提案と準備期間の確保

- ・気持ちは分かる。が、実行委員会組成されているはずの明けて1月。準備する期間は十分あると思う。会報あがた Kick off において、どんな企画を？となった際特にこれほどいうものがなかったと思い、この1月 kick off から幹事会までの期間の問題では必ずしもないとする。

2.7 実行委員管理の備品の扱いについて

- ・昨年も話題になった。実行委員で保管頂ければそうして頂きたい。保管場は必要なので、難しければ貸倉庫など考える。同窓会総務、事務局の備品でもどこかに置場を考える必要があるものは一緒にする。

2.13 広告掲載リストの作成

- ・確かに労力がかかることを改めて認識。1月もあるが3月の合同幹事会の場で、できるだけ「今年も広告よろしく。」と内諾を取り付けたりしたが、それができなくてぶっつけになった。今後気をつけたい。

●3年ぶりの Face to Face 森本

1. 主な経過

- ・開催に関する具体的な検討を行う時期は、新型コロナウイルス第6波（まん延防止等重点措置 1/9～3/21）の頃であった。結果的に6月は第6波が収まりをみせつつある時期となったが、常にコロナの感染状況を睨みながらの検討であった。「久しぶりに会うことにこだわりたい」を終始の合言葉とした。会場の条件と見極めの関係は、以下のよう

であった。

- ・ 3/13 以降のキャンセル対室料 (富士の間 298,210 円に対して)
～4/12 までは 10% (29,821 円) ～5/11 までは 20% (59,642 円)
～5/26 までは 30% (89,463 円) ～5/26 までは 40% (119,284 円) …
- ・ 4/12 に次の判断としたい。現時点 (3/26) では、中止すべきという強い情勢にはなく、新規感染者漸減、新規感染者は若年層に多いこと、ワクチン接種 3 回目が拡大することなどを考慮すると、4/12 にも次の判断①はするものの、案内 (会報) は開催の方向で進める。
- ・ さらに次の判断②は 5/11 (水) であるが、最終判断③は 5/26 (木) とする。
- ・ 5/26 時点で GO の場合は、最小人数になっても開催する。
- ・ GW 前までの段階は、アルカディア市ヶ谷富士の間でコロナ対応として定員×≒60%の席個々盛りプランで行くこと、その最大収容人数は 150 名であることを確認。一方、松本の来賓をどう処遇するか、もし 150 名を超えた場合のサブ会場を手当するかが課題だった。Zoom などによるオンラインも手段としては考慮に入れた。
- ・ どのくらいの参加が見込めるか、回期幹事などを通じた事前ヒアリングを試みたが、結果的にはあまり効果はなかった。僚友校の状況を確認し、早めに招待見合わせの案内を行った。本会場への飲み物持ち込みなしも早々に決定した。
- ・ GW 明け。松本からの来賓上京頂くことを断念。オンラインでいかに参加頂くか検討。松本のサブ会場 (同窓会館、信州屋、だぶるなど) は二転三転。結局テレビ松本の須崎社長との情報交換の延長で、今年も同社スタジオに会長、新校長を迎えて挨拶とインタビューをお願いすることとした。サブ会場をなしとすること 5/16 に決定。
- ・ 5 月 23 日申し込み締め切り 出席予定オンラインから≒40 名、はがきで≒35 名ざっと 78 名の参加が見込まれた。
- ・ 最終 86 名。富士の間半分使いとし、人数変動にぎりぎりまで対応。最後は会場の厚意で富士の間全体使いとし、余裕のある配置ができた。

2. 広報・周知

- ・ HP の初回案内から直前の案内、またそれぞれのタイミングでの SNS を活用した周知について、その反応は大きくなく、進歩はなかったように思う。ある程度やむを得ないか。特に HP はどれだけ身近なものになっているかの問題でもある。
- ・ Zoom による参加 (視聴のみ) について、もっと明確な方針、案内をすべきだった。
- ・ 会員一斉メールも行ったが、会報あがた配布 2,150 部に比してアドレスを把握しているのが 326 件、不達もあり実際届いていると思われるのはもっと少ない。回期幹事を通じて会員への告知について、何人の手ごたえがあったかなどのフィードバックがない。

3. 収支

- ・ 19 名の方から寄付を頂き、それが寄与してマイナスを回避できたことに深く感謝したい。(芳名帳あり)
- ・ 今年もテレビ松本の力は非常に大きく、44,000 円での協力はありがたかった。
- ・ 新卒 73 回生が 11 人。会費は 3,000 円であり収支的には厳しいが、その前の最若手が 46 回生と 27 期分の空白があった。

4. 会場、進行

- ・ 受付 は年代に分けて大きく 4 つの窓口であったが、実行委員は二名のみ。
- ・ 総会は閉会の辞 13:07 で 7 分遅れて閉会。

(資料 1-3)

- ・会場のマイク音声がもっと大きくてもよかった。
- ・懇親会入場開始予定 13:05 が 13:33 と遅れた。時間を守るうえでも呼び込みが不十分。
- ・AV のつながりにもたついた。
- ・乾杯予定 13:35 のところ 13:55
来賓祝辞 (事前収録) 14:10～ よかったが、やはりあまりしっかり聞いていない。
- ・企画② (サッカー対談) 予定 14:55 開始のところ、15:20～15:37
覇権の剣予定 15:20 のところ 15:40
- ・終了は 16:00。集合写真したうえでほぼ時間内。
アルカディアのプロジェクターが旧式。今後使うならば課題。
- ・懇親会の事前シナリオが十分とはいえなかったと思う。
- ・ドタ参加の方の席を考慮していなかった。これは気をつけておきたい。

5. 全般

- ・今年も新型コロナの影響を無視できない中、「リアル集まり」を何とか実現したいという思いを強くもってスタートした。「集まる」ことに反対する会員の声は今年もあった。昨年に比較して、立ち上がりの段階でワクチン3回の接種が進み、感染者推移が漸減傾向にあったことで、距離をとっての集まりは可能ではないか? という予感があり、そのトーンが最後まで変わらなかった環境に感謝したい。
- ・松本との協調や人数が多くなった場合を考え、サブ会場も幾つかイメージしていたが、リアルサブ会場は実行委員会同期の松本のみとした。広がりには欠けた感は否めないと思う。事前収録による会長、新校長の挨拶、インタビューはよかったと思う。校長の「今の縣陵生には、もっと尖っていてもいいのではないか。」が印象的だった。